

のみだより

2007
第13号



秋晴れの中、仲間と心をひとつにして
(根上中学校 大運動会)

◆ 定例会報告	2
◆ 一般質問	3
◆ 討論	6
◆ 委員会報告	7
◆ 視察報告	10
◆ 中学生議会	11
◆ 編集後記	12

発行日:平成19年10月26日
発行:能美市議会
編集:広報特別委員会

〒923-1297 能美市役所辰口庁舎
石川県能美市来丸町1110番地
TEL:(0761)52-8007
FAX:(0761)52-8022
E-mail:gikai@city.nomi.lg.jp

平成19年第3回

定例会報告 (会期:平成19年9月11日~26日)

今定例会では、平成18年度一般会計・特別会計・公営企業会計の決算認定が上程されました。決算認定については、2つの決算特別委員会において12月定例会まで継続審査されることになりました。

審査結果一覧

	案 件 名	採決結果
議案 (18件)	政治倫理の確立のための能美市長の資産等の公開に関する条例等の一部を改正する条例について	可決(全会一致)
	能美市道路占用料に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全会一致)
	能美市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全会一致)
	能美市体育施設条例の一部を改正する条例について	可決(全会一致)
	市道路線の認定、廃止及び変更について	可決(全会一致)
	南加賀広域圏事務組合規約の変更について	可決(全会一致)
	小松能美広域事務組合の解散について	可決(全会一致)
	小松能美広域事務組合の解散に伴う財産処分について	可決(全会一致)
	平成19年度能美市一般会計補正予算(第1号)	可決(賛成多数)
	平成19年度能美市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度能美市介護保険特別会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度能美市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度能美市農業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度能美市温泉事業特別会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度能美市水道事業会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	平成19年度国民健康保険能美市立病院事業会計補正予算(第1号)	可決(全会一致)
	財産の取得について	可決(全会一致)
工事請負契約の締結について(辰口中学校校舎改築工事(建築))	可決(全会一致)	
議会議案 (2件)	道路整備促進に関する意見書	可決(全会一致)
	中小企業の事業承継円滑化のための税制改正を求める意見書	可決(全会一致)

北村 國博 議員



Q 先端大との学官連携の状況を示せ

先端大との学官連携協定が締結されて以来、進められてきた主な活動内容を示せ。

A 交流強化を実感（市長）

今年度は官民協働のまちづくりへ向けた人材育成等、5項目に取り組んでいる。今後は先端大やテレビ小松と連携しながら、ケーブルテレビにより活動状況を市民にも広く紹介していく。先端大の存在意義は市の地域力向上に大きく寄与していくものと期待している。



Q 市立病院の具体的な改善策を検討せよ

A 医師不足対策のため市独自の施策を検討中（市長）

院内で「経営安定化のためになすべき事項」として診療収入増加、経費削減の具体策を実施し、意識改革に努めている。経営改善策では地域再生人材育成プログラム事業に取り組み先端大の協力を受け、有効策を模索していく。

Q 各種ボランティア団体・市民活動に対する行政支援や相談窓口の一元化を図れ

一元化を図り、相乗効果を発揮するための市民活動の拠点づくりを急げ。

A まちづくりセンター設置に向け、策定を進めている（市長）

市民活動の拠点としてのまちづくりセンターの方向性については、先端大との連携による協働型まちづくり協議会から今年度中に提言をいただく予定である。

青山 利明 議員



Q 防災行政無線で緊急地震速報を

緊急地震速報の周知徹底と、防災行政無線を通じた全市民への伝達体制づくり、またパソコンや携帯メールを活用した防災情報の伝達網を整備せよ。

A 防災行政無線での運用は平成21年度以降になる見込み（市長）

現在、独立して運用している旧3町の防災行政無線システムを統合、デジタル化しなければならない。研究会を立ち上げ、緊急地震速報を取り入れた能美市にふさわしい防災行政無線システムを検討したい。パソコンや携帯メール、防災行政無線、テレビやラジオなど、情報過多による混乱への懸念もある。

重複や無駄のない防災情報システムの設備構成を考えていきたい。

Q 音声コード（※）普及に取り組み

点字を利用できない人が視覚障害者の9割を占める。情報のバリアフリー化のため、音声コードの普及が望まれる。

A ニーズをふまえ、検討していきたい（市長）

音声コードの公共印刷物への普及については、障害のある方のニーズをふまえ検討したい。読み上げ装置は日常生活用具給付事業の対象用具であり、1割負担で購入できる旨、周知徹底していきたい。

※音声コード 約2cm四方の2次元バーコードの中に約800文字の情報を記録したもの。専用読取機で、記録されている情報を音声出力できる。



▲音声コード読み上げ装置

嵐 昭夫 議員



Q 地球温暖化対策のため自動販売機の縮小・撤去を

市有施設に設置されている清涼飲料水の自動販売機を縮小、撤去し、マイカップ等を使う給茶機に切り替えることで、容器の減量化や節電に取り組み。
庁内に地球温暖化対策プロジェクトチームを結成し、3R（※）運動に積極的に取り組み。

A 今後、制限的に対応していきたい（市長）

辰口庁舎では給茶機を設置、紙コップを備え付けているが、金属製コップで対応できないか検討したい。
プロジェクトチーム立ち上げは考えていないが、二酸化炭素の排出抑制に向け、全職員で努力していきたい。

Q 未成年者喫煙防止のためたばこ販売機の撤去を

未成年者の喫煙防止や防犯対策として、不適切な場所に設置されているたばこ販売機は撤去すべきである。また屋外販売機に成人識別装置導入を義務付けするなど対応を望む。

A 市内だけの撤去に効果があるのか疑問（市長）

成人識別装置は現時点で販売店の努力義務となっており、設置費用等、導入には難しい面もあるが、有効な手段として設置に努力していただきたい。

※3R リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再資源化）の頭文字「R」をとったもの。



▲給茶器

米田 敏勝 議員



Q これからの能美市の介護施策について問う

介護施設の増設や、在宅介護者に対する介護福祉施策についての考えを問う。
グループホームへの支援や育成をどう行つのか。
介護に対する財源確保として、一般会計から思い切った予算措置を。

A 行政課題を総合的に勘案しながら、福祉施策の充実に努めたい（市長）

南加賀地区の特別養護老人ホームのベッド数は現段階で石川県で認められた上限域にあるため、施設の新増設については当面大変困難である。ただ、改正介護保険法の施行後は入所待機者の状態や施設介護の必要性、緊急性を総合勘

案し、適宜入所可能となっており、今のところ市内では大きな混乱もないと聞いている。

在宅介護者への福祉施策については、現在も在宅介護慰労金給付など充実に努めてきた。今後、在宅介護の状況などもふまえながら、市として何ができるのか見きわめていきたい。

グループホームが抱える一番の課題は、介護職員の確保であるが、民間業者の施設経営に市としてどこまで介入できるかという問題もあり、施設経営者の自助努力に期待するところである。

一般会計から財源を求めることについては、他の市政執行上でもさまざまな困難があり、原則として制限的に考えるべきである。



▲包装紙制作のようす（市内デイサービス施設にて）

福田 豊 議員



Q CATV通信網による
ブロードバンド（※整備
について問う

近い将来、電話の全国一律サー
ビスの対象が、固定電話からIP
電話になる。その事業展開には、
NTTの光ファイバー回線利用が
予想される。市内全域に整備され
ている光ブリード利用のCATV
通信網で、IP電話化の対応は問
題ないか。

A これからの動向をふまえ、
インフラの整備を検討し
たい（総務部参事）

光ブリード回線利用のCATV
通信網でもIP電話化は可能だが、
多額の設備投資が必要。また、I
P化には相互接続の技術基盤や品
質確保など課題も多々ある。しば

らく様子を見ながらテレビ小松と
の連携の中で対応していきたい。

Q 「産業観光」についての取
り組みの姿勢はどうか

市内の工業団地の整備、企業誘致、
既存企業の大規模な事業拡張は順調。
これからは人・物・情報の交流と
発掘のためにも、産業観光に取り
組むべきではないか。

A 積極的に取り組まなけ
ればならない（市長）

産業観光の推進は、企業との関
係では雇用の創出、人材の確保に
つながる。また能美市が、伝統産
業の九谷焼、最先端の工作機械、
繊維、電子産業などの「ものづくり」
のまちであることもアピールしたい。
産学官の連携をとりながら、温泉
をはじめ地域資源の有効活用を図
り推進していきたい。

※ブロードバンド
電話回線より高速（大量）に情報を伝達
できる通信回線。CATVは光ブリード
回線、NTTは光ファイバー回線を利用
している。

近藤 啓子 議員



Q 新設道路の
安全対策をとれ

辰口地区で3本の新設道路が供
用開始となる。具体的な安全対策
を求める。信号機の設置など安全
性が確保されなければ、使用を延
期すべきだ。

A 安全面を最重点に整備した
道路である（産業建設部長）

新設道路は車と歩行者を分離し
た安全性の高い道路である。供用
開始までに市として設置すべき安
全施設は全て設置したい。県公安
委員会とも協議中であり、子ども
の安全を守る信号機については特
に強く要望している。

Q 学校図書
の充実を図れ

政府は学校図書の充実に向けて
2002年から特別の予算づけを
行っている。市全体の蔵書数は高
い水準にあるが、学校間のばらつ
きもあり、粟生小学校では充足率
68%である。蔵書計画と学校図書
館司書の充実を求める。

A 市立図書館との連携で充
実を図りたい（教育長）

学校間の充足率の差のみで云々
言うべきではない。図書予算は特
別な加算をせずに生徒数に応じて
配分している。市立図書館3館と
の連携で充実を図りたい。司書配
置は総合計画の指標にのっとりて
計画していく。



▲粟生小学校図書室

賛成

北野 哲 議員

市町の財政負担も軽減されると思われる。

担い手農地集積高度化

促進事業は効率のよい農作業を進める事業であり、ふるさとの森林保全事業

は林道整備が主で、林業

の作業の安全と効率促進であり、企業立地促進費

は企業誘致、増設を期待

するものである。

市立病院関係では医師

不足対策として特殊勤務手当が条例改正として上

程され、また白山市民を

無料で市立病院へ送迎する車の試験運行も10月

より実施され、的を得た

事業である。

今後とも健全財政の

と、市民が主役との認識を持ち、市の発展を願い、

本定例会に上程された全

議案、報告に賛成の意を表する。

南加賀急病センターは加賀市と川北町も参加し、より広域な事業となり、後期高齢者医療も来春よりスタートし、75歳以上の高齢者の医療費抑制、

反対

近藤 啓子 議員

ある。

元厚生労働省老健局長で大阪大学教授は「姥捨て山」保険であると痛烈に批判している。

一部修正だけでは認め

ることのできないもので

あり、政府に対し制度の凍結と抜本的な検討を求

めていくべきである。

高齢者や低年金者が医療から排除されないよう、

広域連合として、また市

としても独自の救済措置を検討すべきである。

実施半年前にして問題

点も多く、高齢者の命を守る保障もない制度実施

には反対である。

議案第63号平成19年度一般会計補正予算において、後期高齢者医療連

合負担金1612万2千円の追加補正について

反対する。

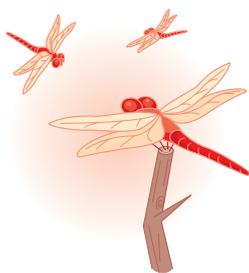
75歳以上のすべての人

から負担能力を超えた保険料を年金から差し引く

こと、滞納者には医療費

の10割負担を求めると、

また包括医療として一定



統合庁舎検討 特別委員会報告

当委員会は庁舎統合の是非について、10回の委員会、4市への視察を通し検討を重ねてきた。

執行部の報告では、市民サービス

維持を最優先に、3庁舎の窓口業務の充実を促進中である。3庁舎

の維持管理費は17年度決算において合計約9200万円で、18年度

は9600万円となる見込みである。

全国的には、管理部門を本庁に統

合し事業実施部局は各支所に残す総合支所方式の採用が最も多く、次いで能美市採用の分庁方式が多い。分

庁方式から統合庁舎建設に向けて取り組んでいる市はごく少数である。

9月定例会中の委員会でも、これまで意見交換や視察先での研修内容をふまえて審議した結果、合併の効果はスリム化であり、維持管理費や行政の効率化を考慮すると「庁舎は統合すべき」との意見で全委員が一致した。

今後は、統合の方法、新庁舎建設

や現庁舎の利用など、市民意識調査等を通し、より多くの市民から合意

を得られるよう執行部と一体となり、

慎重審議していく。

慎重審議していく。

慎重審議していく。

慎重審議していく。

慎重審議していく。



総務常任委員会

委員会付託案件 3件

- 政治倫理の確立のための能美市長の資産等の公開に関する条例等の一部を改正する条例について → 原案可決（全会一致）
- 南加賀広域圏事務組合理約の変更について → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市一般会計補正予算（第1号）～所管事項～ → 原案可決（全会一致）

委員会における質疑応答

- Q** 南加賀急病センター利用患者数の各市町内訳は。
- A** 本年1月から8月までの実績で、能美市1,183人、小松市3,990人、加賀市822人、川北町58人、その他、南加賀広域圏以外の地域から緊急に利用があったのが381人である。
- Q** これまで能美市と小松市で負担してきた南加賀急病センター（休日夜間急患センター）の建設事業費は、加賀市と川北町が共同事務処理に加わることでどのように負担することになるのか。
- A** 従来、能美市と小松市が納めていた分をいったん精算した上で、4市町があらたに人口割に基づき負担していく。

視察報告

- 視察日 8月8日（水）～10日（金）
- 視察先 兵庫県篠山市
福井県越前市
- 視察内容

篠山市は市町村合併の先駆けとして平成11年4月に近隣4町が合併して誕生。

現地事務所廃止や支所と公民館の一体化、勤奨退職実施などにより職員数を17%減少させた。加えて市営事業の民営化、消費的経費の節減、公共工事のコスト縮減により37億円の効果を上げた。

一方で合併後9年経過し、特例債により進めてきた社会資本整備にかかる公債費の増大や地方交付税等の収入源が行革効果を打ち消す結果となり、さらなる行革に取り組み中である。

越前市は平成17年10月に武生市と今立町が合併してできた比較的新しい市。向こう5年間の財政計画で、基金を取り崩しても11億円の財源不足が生じる見込みで、歳入確保と歳出削減で20億円の成果を設定、107事業の課題に取り組み中である。

各集落で独自に事業を考案、地域負担が2割、市が8割を交付する活性化交付金に話題が集中した。市民の協働参画活性化の観点からも良策である。



▲越前市議会議場

産業建設常任委員会

委員会付託案件 8件

- 能美市道路占用料に関する条例の一部を改正する条例について → 原案可決（全会一致）
- 市道路線の認定、廃止及び変更について → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市一般会計補正予算（第1号）～所管事項～ → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市公共下水道事業特別会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市温泉事業特別会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市水道事業会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 財産の取得について → 原案可決（全会一致）

委員会における質疑応答

- Q** 郵政民営化により、総務省から道路占用料がかかるとの理由で郵便ポストを減少させるとの話はなかったか。

A 特にない。現段階では市内に道路占用料が発生するポストはない。
- Q** 面的集積強化促進事業の詳しい内容は。

A 本年新しくできた事業であり、面的にまとまりを持った農地、農作業を集積した団体への奨励金を交付するものである。集積した面積に比例して奨励金の額も高くなる。
- Q** 辰口地区の温泉井掘削工事の進捗状況は。

A 9月中旬に掘削終了、10月中旬に揚湯試験を行う予定。
- Q** 辰口倉重線の供用開始の見通しは。

A 電柱移設、照明設置工事ののち、11月に開通できる予定。

視察報告

○視察日 7月30日（月）～8月1日（水）

○視察先 佐賀県有田町、唐津市
長崎県佐世保市

○視察内容

有田町は人口2万2千人で、伝統工芸有田焼の産地として知られるが、近年売り上げがピーク時の3分の1に減少し厳しい状況が続いている。今後、高級和食器産地として高付加価値製品に積極的な取り組みをしていく。

佐世保市は人口25万8千人で、デパートや娯楽施設、病院から介護施設まで、すべての施設を集積した日本一長いアーケード街が人を呼び、日本一元気な活気ある町として全国に紹介されている。

唐津市は人口13万4千人。唐津焼の産地としての知名度を観光面に生かすべく、観光客が窯元の焼き物を楽しむ場を整備することで観光拠点づくりに努力している。

佐世保市の中心街活性化は地域の知恵と努力によるものであり、能美市においてもソフト事業が課題と思われる。地場産業の活性化は製品の高付加価値化と同時に新商品開発や多様な製品展開など、産地挙げての体制づくりが求められる。



▲佐世保市 アーケード街

教育民生常任委員会

委員会付託案件 9件

- 能美市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について → 原案可決（全会一致）
- 能美市体育施設条例の一部を改正する条例について → 原案可決（全会一致）
- 小松能美広域事務組合の解散について → 原案可決（全会一致）
- 小松能美広域事務組合の解散に伴う財産処分について → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市一般会計補正予算（第1号）～所管事項～ → 原案可決（賛成多数）
- 平成19年度能美市国民健康保険特別会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度能美市介護保険特別会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 平成19年度国民健康保険能美市立病院事業会計補正予算（第1号） → 原案可決（全会一致）
- 工事請負契約の締結について（辰口中学校校舎改築工事（建築））※ → 原案可決（全会一致）

委員会における質疑応答

- Q** 小規模多機能型居宅介護事業所について、建設時期及び今後の設置の見通しは。
- A** 11月着工、4月開設予定。今後、利用待機状況も考慮しながら設置を検討していく。
- Q** 公的年金について、市からの資料提供は可能か。
- A** 国民年金の被保険者台帳は市で保管してある。市民からの照会は、社会保険事務所を通じて、収納記録を請求するよう求めている。

※「工事請負契約の締結について（辰口中学校校舎改築工事（建築）」に対する委員会要望
 予定価格より低い落札率で契約した業者に対して、質的低下と工期遅延をきたさないよう、徹底した監理を実施せよ。

視察報告

- 視察日 8月22日（水）～23日（木）
- 視察先 兵庫県加西市（市立加西病院・市立賀茂幼稚園）
 兵庫県芦屋市（市立芦屋病院）
 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター

○視察内容

市立加西病院は近年入院・外来患者数が減少、一般会計からの繰入金による運営を余儀なくされている。医師確保のためホームページや関連団体を通じて医師を募集している。同時にホスピタルフェアや病院だよりの全戸配布、また医療機関との連携により外来患者や紹介患者の確保を図っている。

市立芦屋病院も厳しい経営状況で、病院内部の収支改善と診療科再編に向け、歯科、泌尿器科を院内開業医師制度の対象としている。

賀茂幼稚園は保育所と幼稚園の機能を併せ持ち、現保育所の施設内で幼稚園児を受け入れ、合同保育を実施している。幼保一元化の方式としては、保育園の統廃合ではなく、幼稚園を導入し、幼児教育の充実を図るといった観点でとらえるべきである。



▲芦屋市議会にて説明を受ける委員一同

能美古墳群保存整備特別委員会

○視察日
7月2日(月)～4日(水)

○視察先

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町「吉野ヶ里遺跡」
大分県大分市「亀塚古墳」「海部古墳資料館」
福岡県福岡市「板付遺跡弥生館」「金隈遺跡」

○視察内容

吉野ヶ里歴史公園は、国と県が共同で整備した史跡である。紀元前3世紀から約600年間の長い期間に小さなムラが大陸の文化を取り入れ、やがて国の中心集落へと発展する過程を示した弥生時代の遺跡。発掘した遺構面より30cm以上盛土をして復元され、大型建物跡、物見櫓など大小30棟余りがある。

亀塚古墳は、豊後水道を見下ろす丘陵に5世紀前半に築かれた全長約116mの大分県最大の前方後円墳。被葬者は副葬品から瀬戸内海を舞台に活躍した豪族と考えられる。隣接する海部古墳資料館は、実物資料や古墳復元模型により古墳づくりやムラの生活を再現している。

板付遺跡は、日本で最も早く米作りを始めた場所として学術上でも貴重である。資料館では発掘資料をもとに当時の道具を復元し、手にとつて実感できる。

以上、古墳時代以前の弥生時代の遺跡や墓、資料館等の活用運営を主に視察した。今後の能美古墳群の博物館、学習資料館の整備に生かしていきたい。



▲亀塚古墳 墳頂部の埋葬施設

統合庁舎検討特別委員会

○視察日
7月3日(火)～4日(水)

○視察先

富山県射水市、千葉県山武市

○視察内容

射水市は新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村が合併し、事務所の位置を小杉庁舎に、議会を新湊庁舎に置いた。

新庁舎建設を公約した新市長は、庁内で統合庁舎建設調査委員会を設置し、本庁方式(新庁舎に機能を集中)と分庁方式を維持管理費や人件費の面で比較試算した。結果、本庁方式では年間6億円の経費削減が可能とわかる。続いて18歳以上5千人を対象にした市民意識調査を実施。2732人から回答を得て、その約60%が新庁舎建設を選択。この結果を受け、市民等による統合庁舎建設等検討市民懇話会を設置し、第1回会合で全員が建設推進に賛成。今後市民懇話会の協議結果を受け、9月議会ですとしての方向性を提案する予定。

山武市は合併当初統合支所方式(管理部門を本庁に統合し、事業実施部局は各支所に残す)でスタートしたが、しばらくで問題発生し分庁方式に切りかえた。二次合併も視野に入れて当分の間、分庁方式を続けるとのことであった。



▲射水市議会にて

広報特別委員会

○視察日
8月27日(月)～28日(火)

○視察先

長野県東御市議会
石川県県民交流課

○視察内容

東御市議会だよりでは、表紙の3部構成写真、一般質問の大見出し、市民が登場する私の一言などが特徴的であり、議会だよりの改善意欲は当市議会と同じで、相互の意見交換ができた。発行部数は1万450部で、年4回発行している。A4サイズで18頁が基本、表紙と裏表紙は4色カラー、その他の頁は2色刷り。予算は年間200万円で1部あたりの実績は29.9円である。(当市議会は、発行部数1万5千700部、全頁4色カラー、予算は約250万円、1部あたりの実績は18頁換算で25.4円)

石川県庁舎では県民交流課を訪ね、「ほっと石川」の編集方針や取材活動などを研修、その他毎水曜日に新聞掲載している「広報いしかわ」、テレビ、ラジオ、インターネットから電光掲示板にいたるまで幅広い広報活動の取り組みを学んだ。



▲県民交流課広報リーダーの説明を受ける委員一同





～未来の主役は私たち!～
能美市まちづくり中学生議会

8月21日(火)、能美市議会議場において能美市まちづくり中学生議会が開催され、市内3中学校から選出された22名の中学生議員が参加しました。

市議会の形態に準じて進められた本会議では、市政に対する率直かつ斬新な質問が続き、市長以下執行部が真剣な表情で答弁しました。

能美市の次代を担う中学生のみなさんに市政および議会に対する関心を深めていただく機会となると同時に、中学生のみなさんの視点や思いを知る大変有意義な場となりました。

中学生議員のみなさんからの質問と執行部の答弁をいくつか紹介します。

Q 市内3中学校の連携を助ける設備を

(寺井中 下田春樹 議員)

中学生にも感じられる合併の効果を積極的に生み出し、発展させていくために、3中学校をつなぐネットワークやカメラつきパソコンを設置してほしい。

A 3地区の一体感を高めるシステム構築の可能性を探りたい

(教育委員会管理局長)

合併の一番の課題が3町民の心の融和であった。みなさんが町から市に視野を広げていることに頼もしさを感じる。

現在、小中学校の教員のパソコン整備をすすめており、みなさんが使うパソコン教室のパソコンについても今後整備する中で、会議システムなど活用法について可能性を探っていきたい。

Q 防風林とハマナス群落の保護を

(根上中 川端李沙 議員)

塩害や松くい虫により、防風林の松やハマナスが減少している。地元の人の思い出のある松の木や、日本最南端として自生する市のハマナス群落を守るため私たちに何ができるか。

A 生活の中で環境を守る努力を

(環境安全部長・教育委員会管理局長)

ボランティアの方々との協力を得て薬剤注入など実施しているが、効果がなかなかあがらないのが現状で、松くい虫に強い抵抗性松へ変える計画も持っている。

平成17、18年度とハマナスを飛び砂や塩害から守る防風垣を設置、苗1,000株を植えるなど保全事業に取り組んできたことで、群生域が拡大した。

根海岸の森林衰退に大きく影響しているのは地球温暖化である。私たち一人一人が地球温暖化に歯止めをかけるにはどうすべきか考え、行動することが大切。みなさんの協力をお願いしたい。

Q 動物との共生のために

(辰口中 西村健吾 議員)

私たちの生命維持装置でもある山林を守り、クマなどの動物と共生できるふるさとづくりを。

A 多様な生物と共生しながら里山保全活動を進めたい

(環境安全部長)

日本全国で里山が放置される中、能美市では里山ファン倶楽部が結成され、里山の良いところを見直してみようと様々なイベントを展開している。

石川県では森林環境税が導入され、県民から広く薄く税金を集めて山林の間伐、下草刈り、植林などを実施するようになった。2、3年後には必ず効果を発揮するものと思われ、クマと人との住み分けも自然とできてくると期待している。

会派の構成が変わりました

8月に新会派「清風21」が誕生し、会派構成は以下になりました。

能政会	米田 敏勝	清風21	明福 憲一	公明	青山 利明	きらめき	小手川 正明
杉田 隆一	倉元 正順	高木 雅宣	高木 雅宣	市民	嵐 昭夫	日本共産党	近藤 啓子
中野 眞治郎	北野 哲	白川 寛	白川 寛	あおぞら会	北角 耕一		
金森 修栄	北村 國博	畑中 晃昭	畑中 晃昭				
荒田 正信	居村 清二	井出 善昭	井出 善昭				
東 正幸	福田 豊						

会議録の検索ができます!

のみだよりの紙面の都合上、一般質問をはじめとする本会議のすべてを掲載することはできません。正式な会議録は能美市ホームページで検索することができます。会議録のほか、議会に関する様々な情報も掲載していますので、ぜひご覧下さい。

ホームページ <http://www.city.nomi.ishikawa.jp>

1 ホームページ左の「議会」をクリック



2 「会議録検索」をクリック



3 議会会議録検索システム



編集後記

記録的な暑い夏もようやく終わり、朝夕めっきり涼しくなりました。すすきの穂が揺れるさまは、まさに日本の秋の情景であり、ほっとする今日この頃です。

9月議会も市民生活に直結した重要な補正予算などの議案を常任委員会ごとに慎重審議し、終了しました。私たち市議会議員も就任以来早や2年が経過し、合併後の新市形成に様々な取り組みをしてみられました。その活動を市民のみなさまにご理解いただくため、議会広報「のみだより」を見やすく、わかりやすく編集し、親しまれる広報を目指してまいりました。

夏には初めて中学生議会が開催されました。私たちも問題視している環境問題など鋭い視線で執行部に質問する中学生議員には感服しました。私たちも初心にかえり、市民の立場に立った議会活動を真摯に行っていかなければいけないと痛感しました。

これからも「のみだより」をご愛読いただければ幸いです。 (倉元 正順)

広報特別委員会 委員長：小手川 正明 副委員長：嵐 昭夫 委員：倉元 正順 北野 哲 福田 豊

